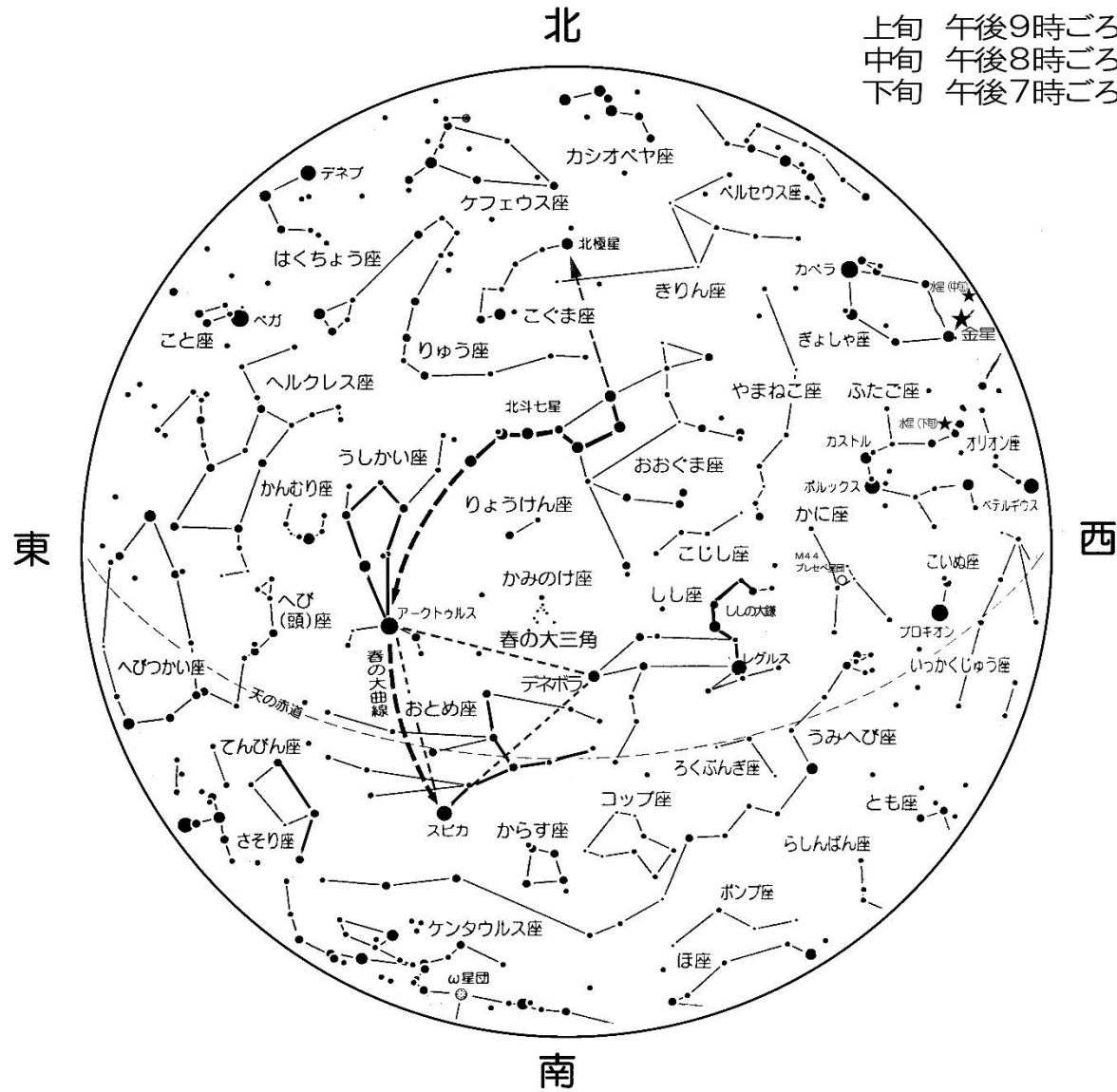


令和2年 5月の星空さんぽ☆ガイド ~ほしを眺めてみませんか~



上旬 午後9時ごろ
中旬 午後8時ごろ
下旬 午後7時ごろ

★5月の星空案内

今月の星空では、まず北の空の7つの星でつくる「スプーン」のような星の並び、北斗七星を見つけましょう。この北斗七星はおおぐま座の一部です。北斗七星の「スプーン」の持ち手のカーブを南へ延ばしていくと、オレンジ色っぽく輝く1等星アークトゥルス、さらに延ばすと、白色っぽく輝く1等星スピカが見つかります。北斗七星 → アークトゥルス → スピカまでのカーブを『春の大曲線』といい、この曲線をたよりに春の星座を見つけることができます。うしかい座はアークトゥルスから「ネクタイ」のような星の並びが目印、おとめ座はスピカから「アルファベットのyの字」の星の並びが目印です。アークトゥルスとスピカ、2等星のデネボラを結んでできる三角形は『春の大三角』といいます。デネボラは「ししのしっぽ」という意味で、ここにはしし座があります。しし座は、『ししの大鎌』というデネボラの西にある1等星レグルスから「?マーク」を裏返したような星の並びを目印に見つけてもいいでしょう。春の大曲線をさらに延ばすと、小さな四辺形のからす座も見つけることもできます。春の大曲線や春の大三角をたよりに、春の星空さんぽを楽しんではいかがでしょうか。

< 現在見える惑星 >

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 水星(-1.2等前後): おひつじ座→ふたご座付近 | 日の入り後、西の低空で輝く。(下旬) |
| 金星(-4.2等前後): おうし座付近 | 日の入り頃、西の空でひととき明るく輝く。(上旬~中旬) |
| 火星(0.2等前後): やぎ座→みずがめ座付近 | 夜明け前、南東の空で赤っぽく輝く。 |
| 木星(-2.5等前後): いて座付近 | 夜明け前、南南東の空で明るく輝く。 |
| 土星(0.5等前後): やぎ座付近 | 夜明け前、南南東の空で輝く。 |

注目の天文現象 ~大接近して輝く水星と金星、そして月を楽しもう~

夕方、西の空で美しい輝きを放っていた金星は、5月の下旬になると高度も低くなり、見頃を終えようとしています。そんな金星に5月22日、大接近して並んで見えるのが水星です。水星は太陽系の惑星の中で一番太陽に近い所を回っているため、地球から見ると太陽のすぐ近くに見えています。水星が太陽から最も離れて見えるときでも、水星が観察できる時間は、日の出または日の入り時刻の前後30分~1時間程度しかありません。ですから、肉眼で観察できる5つの惑星(水星・金星・火星・木星・土星)のうち、最も見る事が難しい惑星が水星なのです。22日の水星は-0.6等の明るさなのですが、日の入り後のまだ明るい空の中で探すのは少し難しいかもしれません。そのようなときには双眼鏡を使うと見つけやすくなります。(※双眼鏡を使う場合は、絶対に太陽の光が入らないように、日没後から観察をしましょう。)この日、金星と水星の見かけの距離は1°弱。腕をいっぱい伸ばした時の小指の幅が約1°ですので、金星から小指の幅くらい離れたところを目印に探してみるとよいでしょう。さらに2日後の24日には、この二つの惑星に月齢1.7の細い月が接近し、さらに印象的な眺めとなることでしょう。夕焼けが残るほのかに明るい空の中、もう少しで見頃を終える金星と、なかなか見ることのできない水星、そして日々変わる夜空の景色を楽しんではいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
1	金	☾上弦 (05:38)	22	金	水星と金星が近づいて見える (16:54)
5	火	立夏 (09:51) 【暦の上では夏を迎える】	23	土	●新月 (02:39)
7	木	☉満月 (19:45)	25	月	パンスターズ彗星が明るい (5~6等級)
14	木	☾下弦 (23:03)	30	土	☾上弦 (12:30)